

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ「知・徳・体」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) ・社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・基礎・基本が定着し自律的な学びの学校 ・夢と志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校
----------	--------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		I 学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価				
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的・対話的・深い学びの創造	自ら学ぶ力を育てる授業づくり 選択肢と自己決定 学習者用情報端末の活用による授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢と自己決定のある授業作り(個別最適な学び) ・学力分析に基づく学力向上の取組(学び直しの場の設定、小中連携による授業研究) ・共に学ぶ集団づくり ・学習者用情報端末活用による積極的な授業改善 	①学力定着確認テストの正答率 ②QUの結果をもとに、学級指導を行う。 ③担当教科で学習者用端末を使い授業改善を行う。	①偏差値昨年比+1 ②每学期1回以上 ③各学期1回以上	①0%	①0%	①0%	①D	①年度初めのテストでは5教科とも昨年度より下がったが、11月実施の3年生市内統一テストで市内平均を上回った教科が2つあった。生徒が選択して学習する授業スタイルや授業外での学力補充(英検対策)で生徒が主体的に学ぶことができた。3年生英検3級取得率は第2回までで65%。現在第3回の結果待ち。 ②各学年、全体で研修を行い、今後どのように関わりをつくるか話し合い、生徒に対応をすることができた。1回目のQUと比較して大きく変化した生徒について研修で共有できた。 ③各教科、各学級の活動の様々な場面でクロームブックを中心にICTを活用した。他の教員の授業を参観し、情報共有を進めることができた。	①定期試験やアシストシートの結果を見ながら個に応じた指導や学びの選択肢のある授業づくりを続けていく。 ②生徒の情報共有を行い、教員間で連携を取って学年末に向けて集団作りを行う。来年度に向けて、生徒一人一人が良い準備ができるように個人、集団への働きかけを行う。 ③生徒の学習がより効果的になるICTの活用や教員の負担を軽減できるようなICTの活用を、使用例を共有しながら進めていく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末の利用が思った以上に進んでいる。(小松原) ・ICTを活用したさらなる授業改善に努めてください。(豊田) ・学力に関しては、個々の伸びが分かれば良いと思います。(藤井) ・自ら学ぼうとする意欲的な姿が見られました。クロームブックの使用も子どもたちの意欲の向上につながっていると思います。英語の授業もとても楽しそうに受けていて、こちらも楽しく拝見させていただきました。(中西) ・学習者用端末を活用した授業が新鮮で、子どもたちの学習意欲に役立っている(賀谷)
				①フォロータイムの工夫	①学期に1回以上の参加	①100%	①100%	①100%	①A			実施計画を立て、生徒が自ら学習する機会を作ることができた。3学期からは教科ごとに担当者を担当することで、生徒が質問しやすい環境を作った。	学年末にさらに内容の検討を行い、生徒のつまづきに合わせた復習を行う時間になるように工夫する。	○	
		家庭学習の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方指導の充実 ・「自主学習ノート」の指導と向上 ・家庭学習の習慣化 	①生徒一人一人の実態に応じた課題の工夫 ②生徒の自主学習の紹介	①実施した100% ②学期に1回以上の実施	①100%	①100%	①100%	①A	①各授業で生徒ごとに必要な支援、手だてを考えて授業を行なった。難易度の異なる課題の提示や教え合いの可能な授業形態の工夫など様々な方法に取り組んだ。 ②前期は3クラスのうち、2つのクラスで紹介・交流を行うことができた。後期は参観日で自主ノートを展示して学年を超えて交流を行うことができた。	①より一層、授業中の学び方の指導に加えて、課題の選択肢も各教科で増やす。他教科の授業参観を通して情報を共有する。 ②各クラスのHRや行事で自主学習の交流に取り組む、生徒会や委員会の取り組みと関連付けて取り組みを進めていく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習を意欲的に取り組めるよう工夫をこらしてください。(豊田) ・自主学習ノートのデジタル版もできると思いました。(藤井)
豊かな心	自己肯定感が高い心豊かな子どもの育成	自己指導能力の向上 不登校未然防止 地域貢献意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三機能を生かした指導と生徒会活動の活性化(自治能力の育成) ・SSRの活用、相談体制の充実 ・自主参加による地域ボランティア活動の充実 	①生徒指導に係る評価アンケートを全学年で実施する。 ②学校行事への生徒満足度。 ③地域ボランティア活動への参加回数。	①肯定的評価80%以上 ②肯定的回答90%以上 ③平均1回以上	①94.25%	①92.05%	①100%	①A	①「自分は周りの人から認められています」「自分には良いところがあります」の質問に対する否定的回答が10%を超えている。 ②球技大会の運営に関して中学生が主として取り組むことで充実感を得た生徒が多かった。 ③中止や参加自粛により参加が難しい中で平均1.26回参加することができた。参加回数が0回の生徒が三分の一程度いる。	①学級活動(掃りの会)で先週のピカイチを紹介するなど)や学校行事等で活躍できる場を設け、自己有用感を高めていく。 ②生徒会を中心に学校行事を行い、その中でクロームブックを活用して全校生徒の意見を取り入れて行うことができた。それを継続的にしていく。 ③コロナ禍で活動の中止や参加自粛によりボランティアの機会が減っている。ボランティア部、生徒会を中心に学校内に呼びかけを行う。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高めるための工夫に期待します。ボランティア活動ができるようになるとういことです。(豊田) ・クロームブックをもとに従来以上のコミュニケーションをとらせることができるとういと思いました。(藤井) ・授業の様子を見ていて、みんな友だちを大切に、認め合っているのが感じられました。(中西)
健やかな体	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題の克服 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・9カ年を見通した体力づくりのカリキュラムに基づく体育科授業の工夫改善 ・部活動の練習方法の工夫(個人目標・チーム目標による生徒満足度の向上) ・「金のルール」「食育」「久井中ノート提出」による生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食に関する関心の向上) 	①「体力・運動能力調査」で全国平均以上の種目の割合 ①50%以上	①14.5%	①-	①29%	①C	「20mシャトルラン」の種目に関して、全学年男女ともに全国平均、県平均を下回っていた。全身持久力に課題がある。			1月の保健体育科の授業において、陸上競技(長距離走)を実施する。その際、クロームブックを活用して自分の走り进行分析し、記録向上を目指す活動を行う。	○		
信頼される学校	開かれた学校づくりと教職員の資質向上	小中連携教育の成果が保護者・地域に伝わるための情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・各たよりの発行 ・HPの積極的な更新 ・園小中高連携 ・保護者の学校教育満足度 	①各たよりの発行(月1回以上) ②HPの更新(月1回以上) ③園小中高の交流回数(年4回以上) ④保護者の学校教育満足度	①100% ②100% ③100% ④80%	①83%	①82%	①82.5%	①B	①学校だよりは月1回発行できた。 ②HPの更新も月1回更新できた。 ③小中連携校ということもあり、小中での連携は密に行うことができた。また、中学校と小学校の教員が兼務して授業を行っているため、互いに児童生徒の様子が変わり易い。高等学校との連携もできた。	保護者アンケートの中で、数値が低い項目について、教職員で共通認識を図り取り組んでいく。 また、異校種連携も引き続き行っていく。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・HPを更新された時は、すぐ一で告知されてはどうでしょうか。(小松原) ・園小中高の連携をさらに進めて下さい。(豊田)
			<ul style="list-style-type: none"> ・服務研修の充実(不祥事ゼロ) ・主任主事を中心とする組織的な学校運営 	①服務研修(接遇研修を含む)毎月1回以上 ②小中合同の学校経営会議を開催(月1回)	①100% ②100%	①100%	①100%	①100%	①A			①小中合同で服務研修を分担して担当し、月1回以上行うことができた。 ②小中合同の学校経営会議を月1回開催し、小中連携校として学校行事等の打ち合わせを行い、スムーズな学校運営をすることができた。	①月1回の整理整頓日の徹底を呼びかけることで不祥事防止に対する意識を高める。 ・服務研修を工夫し「自分事として捉える」ことができる研修内容にしている。	○	
働き方改革	教育の質の向上を図るための環境づくり 教育の質の向上を図るための環境づくり	「指針」に基づいた学校の取組を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・上限目安時間の管理(45時間/月) ・週1回の定時退校日の徹底 ・組織的・計画的な学校運営による効率化 	①月の時間外在校等時間を45時間以内	①100%	①60%	②50%	①55%	①D	教職員16名の10月から1月末までの在校時間45時間以上の割合が50%であった。2人に1人の割合で45時間を超えている実態があるため年間を通して、見直しをもって業務を行うことが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務が同じ教員に偏らないように業務の見直しをすることで業務改善に繋げたい。 ・超過勤務の現状をペーパーで示し、現状把握と働き方を考える指標とする。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革への意識が高まっているようですね。(豊田) ・課題だと思いますが、職員全体の平均はどうでしょうか。(藤井) ・主体的な学びを深めるためには、先生方の準備も大変だと思います。効率化を図りながら、お身体も大切にしてください。(中西)

本年度の重点目標については◎印で示す。

【 j : 自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【 I : 学校関係者評価 評価】
 イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。